

## 学びの下地を整える

校長 水野 裕司

瓜生小学校伝統の和太鼓の元気な音色が響く季節がやってきました。今年は4年生がトップバッターです。1年生の時に学習した「龍神太鼓」の拡大版に取り組んでいます。練習し初めのころは、音がそろわずバラバラでしたが、だいぶ音がそろってようになってきました。先日の6時間目、校庭から低学年の男の子の「ソーレツ！」という大きなかけ声が聞こえてきました。何を叫んでいるのなと思っていたら、4年生が叩く太鼓のリズムに合わせて合いの手を入れている声でした。下校するとき聞こえてきた太鼓のリズムに合わせて声を出し、気分よく下校する子供たちの様子を思い浮かべ、私もいい気分になってしまいました。

このような、人を引き付ける演奏をするには、粘り強く何度も練習することが必要です。ところが、練習が始まった時は、一つのパートの演奏が終わる度におしゃべりし、予定通り練習が進みませんでした。「え～！もう一回叩きたかった。」「どうすればもう一回叩く時間を作れるのですか。」という子供と教師のやり取りがありました。そこで子供たちは、「おしゃべりをしない」というめあてを立て、毎回の授業の始まりに確認し、終わりには自分の姿を振り返り、自己評価することにしました。最初は「×」でしたが、次第に「△」、「○」となりと集中して取り組めるようになり、冒頭の様子へとつながりました。7月13日(木)の集会の時間に発表する予定です。学年の制限等は設けませんので、多くの保護者の方に、ご参観いただければ幸いです。さて、ここでクイズです。7月1日に開館した新しい多摩市立中央図書館の中を一番最初に見学した小学生は誰でしょう。答えは、瓜生小学校の3年生です。

先月の学校だよりでもお知らせしまし

たが、7月1日の開館式典に私と6年生の遠藤斎紀さんが参加させていただきました。その関係もあって、担当の課長さんをお願いしたところ、開館準備で大変忙しい中でしたが、6月16日の社会科見学で、開館前の図書館を見学させていただくことができました。学校の読書週間も折り返しとなりました。残り1週間、読書に励んでほしいと思います。

また、7月には2年生以上で、算数の東京ベーシック・ドリルの診断シートに挑戦します。内容は、前の学年で学習したものです。算数では、これまでに学んだ知識や技能を使って、未知の課題を解決することを通して新しい知識や技能を獲得するという学習スタイルをとるようにしています。子供たちが、授業の中で主体的に学習に取り組むためには、前の学年での学習内容をしっかり身に付けておくことが重要です。診断シートの結果を個人面談等でお知らせいたします。夏休みなどの長期休業中は授業が進みません。これまでの学習の確認や復習に取り組む絶好の機会です。学校でも、取り組むポイントを指導します。ご家庭におかれましても、お子様と一緒に確認していただきますようによろしくお願いいたします。



(中央図書館開館のテープカットの様子です。雨のため、室内での実施となりましたが、無事に大役を果たすことができました。)